

平成27年度第1回横浜市子ども・子育て会議 会議録	
日 時	平成27年5月22日（金）午後6時30分から午後8時30分まで
開催場所	関内新井ホール
出席者	相原和行委員、明石要一委員、大野功委員、大日向雅美委員、木元茂委員、後藤美砂子委員、佐野健一委員、住田昌治委員、土山由己委員、橋本ミチ子委員、増田まゆみ委員、森祐美子委員、柳井健一委員、山田美智子委員、吉田眞理委員、渡辺克美委員
欠席者	太田恵蔵委員、高田治委員、蓑田雅委員、梁田理恵子委員
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	<p>&lt;議題&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 会議の運営及び各部会の所掌事項について</li> <li>2 委員長、副委員長の選任について</li> <li>3 部会の委員・部会長の指名について</li> <li>4 横浜市子ども・子育て支援事業計画について</li> <li>5 年間スケジュールについて</li> </ol> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成27年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について</li> <li>2 平成27年度事業概要について</li> </ol>
決定事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長及び副委員長について、委員の互選により決定した。</li> <li>・部会の委員及び部会長について、委員長の指名により決定した。</li> </ul>
<p>&lt;議題&gt;</p> <p><b>1 会議の運営及び各部会の所掌事項について</b>  （事務局）資料に基づき説明  ⇒質問・意見なし</p> <p><b>2 委員長、副委員長の選任について</b>  （事務局）資料に基づき説明  （1）委員長の選任について  （木元委員）委員長はぜひ大日向先生にできればお願いしたいと思っております。昨年までの第1期の横浜市子ども・子育て会議の委員長も務めていただいておりますし、国の子ども・子育て会議の委員も務められているということで、国のことも分かっている、なおかつ横浜市のことも分かっているという意味では、大日向先生が一番適任ではないかと思いますが、いかがでしょうか。  （拍手承認）  （2）副委員長の選任について  （大日向委員長）私といたしましては、昨年度までと同様に、就学児童の分野に大変詳しい明石委員に副委員長としてサポートをお願いできれば大変心強いのですが、皆様いかがでしょうか。  （拍手承認）  ⇒委員長に大日向委員、副委員長に明石委員で決定</p> <p><b>3 部会の委員・部会長の指名について</b>  （事務局）資料に基づき説明</p>	

#### (1) 部会委員の指名について

(大日向委員長) まずは子育て部会です。太田恵蔵委員、後藤美砂子委員、高田治委員、土山由己委員、蓑田雅委員、森祐美子委員、柳井健一委員、山田美智子委員、吉田眞理委員、渡辺克美委員以上の10名の方をお願いしたいと思います。

次に保育・教育部会です。木元茂委員、佐野健一委員、増田まゆみ委員の3名の方をお願いいたします。

続きまして、放課後部会です。相原和行委員、明石要一委員、大野功委員、住田昌治委員、橋本ミチ子委員、梁田理恵子委員以上の6名の方をお願いしたいと思います。

#### (2) 部会長の指名について

(大日向委員長) 子育て部会の部会長につきましては、地域の児童福祉の分野に詳しい、吉田眞理委員が適任でいらっしゃると思います。

保育・教育部会の部会長につきましては、昨年度に引き続き、未就学児童の分野に詳しい増田まゆみ委員が適任でいらっしゃるのではないかと考えます。

最後に放課後部会の部会長、昨年度に引き続き、就学児童の分野に詳しい、明石要一委員が適任でいらっしゃると思います。皆様よろしいでしょうか。

(拍手承認)

### 4 横浜市子ども・子育て支援事業計画について

(事務局) 資料に基づき説明

(山田委員) 確認になるのですが、PDCAサイクルの次期5年に向けての具体的な取り組みなどは、9月にお示しいただけるということでしょうか。

(事務局) PDCAサイクルは毎年度の取組について確認していくこととなりますので、まずは初年度の今年度、事務局から9月の総会において案を提示させていただき、ご意見を伺ったうえで、年度後半の点検・評価につなげていくということでございます。

(住田委員) 概要版の2ページに「社会全体の支援」とあり、ここに「自助・共助・公助の意識」とありますけれども、例えばNPOなどの方々の支援というのかなりあると思うのですが、そのあたりのところについてはこの中のどこかに当てはまるのか、またはその部分というのは外で考えていった方がよいのかというあたりはいかがでしょうか。

(事務局) NPOあるいは地域で活動されているグループを含めてですが、子育て支援の担い手の方の育成、支援ということも、今回計画を策定する中で一つの大きなテーマになりました。会議の中では、人材育成等について一つまとめた項目をつくれないう議論もあったところですが、最終的には、それぞれの施策の中でNPO等の支援も含めた人材育成について記載しています。

(森委員) これからPDCAサイクルのプランをつくっていかれると思うのですが、この数値目標というのはとても大きな指標になると思っています。例えば待機児童の数値一つとっても、私たちのお客さんの中には、そもそも保育コンシェルジュさんのところに相談にいった結果入るのが余りにも難しそうだから働くことをあきらめましたというお母さんがいらっしゃるというふうな状況で、この数値には出ていない、申請することすらもあきらめてしまっているお母さんたちも実は多くいるのだというふうな感じがします。数値には出てきていないけれどもあきらめてしまっている人がいる、そういった方々がその選択肢をあきらめないようにどのようにしていきけるかという視点もぜひ入れながら、考えていけたらなというふうな感じがします。

それから、啓発のための冊子を出すことは非常に大事ですし、啓発活動というのはこういうものがないとできないというふうな感じがするのですが、出して終わりではなく、それが皆さんに活用していただけているのか、新制

度についての認知や啓発につながっているのかということもしっかりと見ていければと思います。

(大日向委員長) 委員の皆様から特にPDCAについて大変関心が高くいらっしゃいまして、まさにそのとおりだと思います。この事業計画は5年を一つのスパンとして目標を設定したもので、今年度はそのスタートの初年度です。ですから、事務局も大変ご努力をいただいたと思いますが、スタートの段階でももちろんパーフェクトではなく、目標を目指して5年間、この事業計画はある種「生もの」ですので、どんどん変わっていく、それをPDCAで練り直していくということがこの会議に課せられた課題でもあろうかと思います。

特に新しい委員の方に見ておいていただきたい点がございます。事業計画の全体版冊子の冒頭で私がおあいさつとして「この横浜市が行動計画策定に当たって全国でもベストプラクティスになるであろう」と思うところがあると申しました。全体版冊子の中にいろいろなコラムが書かれています。これは委員の皆様、あるいは事務局が横浜市の市民にとって一番大切なもの、事業計画に関するものではなく、もっとそこに魂を込めたようなコラムをたくさん考えて入れました。

それから、155ページから以降に参考資料があります。ここにはニーズ調査、あるいはパブリックコメント、あるいはいろいろな説明会の概要が載せられています。全国でも横浜ほど市民の説明会をした自治体はないと思います。

さらには、私はライフステージごとの事業体系、妊娠から18歳まで切れ目なく支援しようとする、その体系が見事にまとめられています。こうしたことをぜひもう一度お目通しいただいて、既に委員の方も、それから新しい委員の方もこれをよくお読みいただいて、私たちのPDCAの際の参考にしていただければと思います。

## 5 年間スケジュールについて

(事務局) 資料に基づき説明

(柳井委員) 子どもの貧困対策に関しては、この会議の中でも話題としては多少上がっていたと認識しております。学校現場で考えますと、今6人に1人くらい貧困家庭だというふうにも言われていますし、実は義務制よりも高校はもっと大変な状況になっていて、ご案内のとおり、今神奈川県一律学区に高校はなっておりますから、ある意味、親の所得と学力というのは比例する部分があって、課題を抱えた子は親が貧困であるというところに相関関係がある。実際にある神奈川の県立学校の中で当然朝ご飯は食べてこない、食べられない、お弁当を持ってこない子がいる。その子に教職員が、例えばビスケット1枚持つと、そのビスケット1枚を走って取りにくる子がいる。

そういう現状がこの現代の中で起こっているということに対して、やはりもう少し意識を持って私たちは子どもの貧困について向き合っていかなければいけないなとすごく今感じています。また、子どもの権利条約にも当然かかわってくると思いますし、ぜひこのことは、総会の中に報告事項としてありますけれども、議論としてもしていきたいなと思っておりますので、ぜひ意見として述べさせていただきたいと思っております。

### <報告事項>

#### 1 平成27年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について

(事務局) 資料に基づき説明

(柳井委員) 教職員の人事異動に伴って、2000人を超える方々が1年間に異動するのですけれども、その中には子育て世代の先生も多くいて、私たちが集約する状況の中で、今年、顕著に増えたパターンとして、きょうだい違う保育園に預けているというパターンがすごく多く出てきたのです。その辺のところについて、なかなか数字の上では見えにくいところだと思うのですが、親にしてみると、2つの保育園に預けるというのは、

朝とても大変なことで、このあたりのところについて何かデータとかそういうものがもしありましたら、お示ししていただきたいなと思っています。

**(事務局)** きょうだい児が別れて入っているか、一緒に入っているかということについて、データとしては追っておりませんが、昨年に今の利用調整の基準をこの保育・教育部会のところでご議論いただいたのですが、やはりきょうだいの同一園の入所というのは非常に大事ということで、一昨年と比べまして、入所基準をワンランクアップしてプラス指数5という、より優位に入れるようにという配慮まではさせていただいたところでございます。

**(大日向委員長)** 分かりました。大切はことだと思いますが、待機児童をゼロにするために何が何でも別れて入れているということではなく、努力としては一緒のところを目指したということなのですね。

**(柳井委員)** 多分、待機児童が減ってきたという中で、入れるようになったから余計顕著になったと私は認識していますけれども、ぜひそのところもお願いしたいなと思います。

**(山田委員)** 西区の拠点の活動の中で、さまざまな保育施設の方々や親御さんの声をたくさんお聞きします。これから子どもが減っていくであろう中で、今までの保育所をどうしていくのか、これからの施策の中でどれだけつくっていったって、子どもが減ってきた時にどうしていくのかという、やはりこれからのことを考えながら、施策を進めてほしいと思っています。あと、ぜひ保育の質、それから、環境ですよ。子どもたちにとって本当に日中を過ごす場所となっているかどうか、保育の質もぜひ大事にしてほしいなというも思っております。

現場の先生の声をお聞きすると、非常にご苦労されている園もたくさんあります。保育士確保だけではなく、やめてしまっは困るので、何とか若い先生を育てたいのだけれども、実際は日中の保育に一生懸命でなかなか先生を育成するという時間がないとか。保育に従事する者が元気でないといけないなと思っておりますので、先生含め保育室の環境、それから、公園の使い方もいろいろ問題になっていると思いますが、その辺のところをしっかり見据えていかないと今後の5年、横浜はどうなるのかなと少し気にしております。

**(大日向委員長)** 今委員がおっしゃった子どもの人口変動はありますよね。必ずいつかは減っていく、それを見通して5年間で推移を考えてのこの事業計画ですので、それはこの事業計画の中に細かい数字で、人口変動に合わせて、量の確保ということを出しています。ただ、さっきも申しましたようにそれは流動的ですので、そういう推計値をつくったとしてもまた変動することがありますので、一緒にPDCAを頑張ってくださいと思います。

**(増田委員)** 横浜の数への挑戦も高く評価はできるのですけれども、今までの部会でもその数だけではなく、先ほど出ました、きょうだいで異なる園というのは入ったけれどもこれではね…という状況だと思います。数字に出ないような、さまざまなご意見を、この中の委員からももちろんですけれども、いろいろな場で率直な思いを私たちは耳を傾けながら、その具体的な方法についても、今までのものにとらわれずに、多様なご意見、状況というものを把握した上で、行政とともに横浜方式といいますか、そういったものもできたらいいなというふうに思っております。今のご意見は私も重く受けとめました。

**(森委員)** 参考資料2のグラフを見ていて、すさまじい勢いで保育園の申請者の数の増えているのが分かります。そこに追いつけるよう保育園整備をしていくのは本当に大変だったことだろうなと、改めて思いました。私たちは何故申請者が増えているのかを見ていく必要があると思います。とあるネットのアンケート結果を先日見ましたらなぜ働きたいのかという結果の1-3位に、「育児が辛いから」といったような理由が入っていたのを大変よく覚えております。横浜ではどうか、という今回出させていただいたデータを見てみると、(事業計画の全体版冊子の)165ページのところで「育児をしていて楽しさと大変さのどちらを感じるか」というところにつきましては、5年前と比べて楽しさを感じる人が増えたということなので、育児のつらさが

原因で復職する人はもしかしたら少しは減ったのかもしれませんが。反対に（事業計画の全体版冊子の）157ページには世帯年収が少し下がっているということもありましたので、経済的な理由が増えているのかもしれませんが。保育園を増やしても追いつかない状況があり、この待機児童という点については当事者ができることはあまりないかもしれませんが、これからも横浜では当事者同士も育児を支え合う場を増やしていくことで「育児が辛いから早く復職したい」という辛い復職や反対にその逆の辛い離職も少なくなればと思います。

こちらはご提案なのですが、「育休後カフェ」というものを戸塚でやっています、復職した後の大変なことを共有する場があります。例えばきょうだい児が違う保育園に通っていて、これだけ大変なんだということ吐き出す場だったりとか、それを共有する場だったりとか、そういった場が今とても重要だと思います。こういう場がもう少し増えていかないと、ただ保育園や制度への不満として残ってしまったり、働くのをやめてしまったりというところにつながってしまうので、そういったコミュニケーションの場というのをもう少し増やしていく、そういった仕掛けをつくっていくのが今後は大事なのではないのでしょうか。

（大日向委員長）待機児童問題は本当に深刻な問題で皆様の関心も高いと思いますが、本日出していただいたこの資料、待機児童に関するさまざまなかなり詳しい資料を拝見して、一言で待機児童というけれど、これだけ大変なものなのだというところを、今改めて思いましたし、これだけ資料を出していただいたということは、非常に議論をしやすくなって来るだろうと思います。保育・教育部会では、これまでも質のことを非常に熱心にご議論いただいてまいりましたが、今後とも量の確保と質の担保をどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

## 2 平成27年度事業概要について

（事務局）資料に基づき説明

（大日向委員長）会議時間がもう残り少なくなっておりますので、ご質問・ご意見等は、直接こども青少年局の方にお寄せください。

### 閉会

資料	資料1-1 横浜市子ども・子育て会議委員名簿 資料1-2 横浜市子ども・子育て会議事務局名簿 資料2-1 横浜市子ども・子育て会議の概要について 資料2-2 横浜市子ども・子育て会議条例（平成27年4月1日施行） 資料2-3 横浜市子ども・子育て会議運営要綱（平成27年4月1日施行） 資料3 平成27年度における会議開催スケジュール（予定）について 資料4 平成27年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について 資料5 平成27年度こども青少年局事業概要 資料6 横浜市子ども・子育て支援事業計画（概要版） <b>【参考資料】</b> ・平成27年度健康福祉局事業概要（抜粋） ・平成27年度教育委員会事務局事業概要
特記事項	本日の議事録は、各委員に確認していただいた後、ホームページで公開する予定です。